

平成27年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいち福祉医療専門学校

1 学校目標

- ・第2世代福医専として新たな10年、20年を踏み出す学校づくりに向けて常に学校経営理念を再認識し、前年度実績を踏まえより一層の教育力と協働意識を高める。
- 1) 情報の共有・協働の定着 2) キャリアセンターとの連携を強化 3) 出席率98%以上、退学率6%以内、進級率・卒業率90%超の定着
- 4) 国家試験合格率90%以上、年度内就職率100% 5) 校友会組織的運営の協働促進 6) 地域貢献の模索研究および展開
- 7) 国際化の模索研究および展開 8) 入学生数190名の到達目標 9) 経費節減、5%削減の意図的促進 10) 教育環境の整備、実習用機器の充実と効率的活用
- 11) イントラネット・BBSの常態化促進でペーパーレス化の追求、および情報の遡及を可能にする記録精度の向上 12) 体験入学参加数、出願数、合格数からの構造的把握

学校目標に対する評価・意見

- ・国家試験合格率の向上に対する具体的な行動を掲げたらよいのではないか。
- ・学生にとって最重要課題である教育成果（国家試験合格率）に対して学校側としてはもう少し厳しい評価をすべきと考える。
- ・国家試験合格率、原因分析、指導方法の工夫改善することに期待しています。
- ・社会人の入学枠があるのに入学者が少ないのは残念、もっと周知する必要がある。
- ・国家試験合格率や就職率に向けての教育活動がすばらしく学生のフォローも十分されている。
- ・海外研修については日程や金銭的なこともあるが、毎年参加者がいると良い。
- ・介護職員の人材確保を図るためにも退学率を最小限に抑え、介護福祉士の資格取得者を増やしてほしい。
- ・授業アンケートの実施は良いが、先生により授業が解りやすい場合と理解が難しい場合があるようです。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
基準1（教育理念・目的・育成人材像等）	3.9	3.9	3.8
基準2（学校運営）	3.9	3.8	3.8
基準3（教育活動）	3.8	3.5	3.6
基準4（教育成果）	3.5	3.3	3.4
基準5（生徒支援）	3.9	3.8	3.8
基準6（教育環境）	3.6	3.5	3.5
基準7（生徒募集と受け入れ）	3.8	3.6	3.8
基準8（財務）	4	4	4
基準9（法令等の遵守）	4	4	4
基準10（社会貢献）	3.8	3.8	3.8

3 今後の改善意見

- ・学科間の学生の交流や他の資格に対する知識の習得。
- ・多職種連携に対する教育活動も取り入れるべきではないか。
- ・学生募集で応募が減っている点への対策を見直し、成果へつなげて欲しい。（地道な学校訪問でのアピール）
- ・出席率等学生の意欲向上は図れつつあると思われるので、少人数グループ制の積極的導入や校友会等との連携を図り専門職としての自覚を促す取組みを期待したい。

- ・もっと高校などに啓蒙活動をしたりOTの将来性をアピールできると良い。
- ・学生の教育のためには教員の研鑽も大切である。
- ・介護現場ではコミュニケーション能力、洞察力、観察力、考察力、行動力がなければ質の高い介護サービスを提供することは難しいので接遇研修などをカリキュラムに取り入れてはと考える。
- ・OSCEと実習の実務能力が比例するように改善し続けてほしい。

4 今後の具体的な改善方策

- ・学校目標を階層化し、学校数値目標および状態目標→学科ごとの行動目標までを掲げる。
- ・授業アンケート結果にかかわらず研究授業を実施、または時間的制約あるならば結果反映の研究授業、少なくとも授業見学を実施する。
- ・診療報酬、接遇など必要時間数を把握し、カリキュラム化を検討する。
- ・理学療法学科・作業療法学科・介護福祉学科での模擬チームカンファレンスなどを行い、多職種間連携を理解できるようなカリキュラムの構成を検討し実施する。
- ・体験入学参加者の歩留まり率を上げ出願に結び付くよう、お礼状を送付する。
- ・公開講座などを実施、当校の存在を広くアピールできるようにする。
- ・出前講座の内容を見直し、作業療法の魅力についての内容を増やし高校への啓蒙活動を行う。
- ・介護実習は専門職業人としての人間形成の場でもあるため、現場と養成校の連携を強化し、目標をさらに統一化する。
- ・OSCEの内容を見直し、臨床実習へのさらなる効果的な位置づけとなるようにする。